

秋田市の胃がん検診(胃内視鏡検査)を受けるかたへ

胃がん検診の流れ

胃内視鏡検査(口または鼻から内視鏡を入れ、直接胃の内部を観察する検査)

病変がある場合、その部分をつまみ取り(生検)、細胞の検査を行うこともあります。検診料金とは別に保険診療となります。

細胞の検査結果および内視鏡画像のダブルチェックにより検診結果を判定します。

約6週間後、秋田市から結果を自宅に送付します



異常なし

定期的に継続して検診を受けましょう

胃内視鏡検査:2年に1回(50歳以上)
バリウム検査:1年に1回(40歳以上)

要精密検査

精密検査を必ず受けましょう

※精密検査は保険診療になります

再度、胃内視鏡検査などを行い、病変の有無や場所を確認します。また、胃の内部を見て、がんが疑われるところがあると、その部分をつまみ取り(生検)、病理検査で診断を確定します。

精密検査結果は、精度管理のため秋田市と胃がん検診を受診した機関にも情報が共有されます。

胃がん検診の受診間隔や有効性等について

胃がんの検診方法は、「問診」に加え、「胃部X線撮影検査」または「胃内視鏡検査」のいずれかです。男女ともに50歳以上の方が対象となっており、検診の間隔は2年に1度です。ただし、当分の間、胃部X線撮影検査は、40歳以上、1年に1度の実施も可能です。

胃がん検診(胃部X線検査および胃内視鏡検査)は、死亡率の減少効果があると国が認めている有効な検診ですが、必ずがんが発見できるわけではありません。また、がんでないのに「要精密検査」となる場合もあります。

厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より

胃がんは日本のがん死亡の上位！

①日本人のがんによる死亡数は、肺がん、大腸がん、膵臓がんに次いで**第4位**

(2023年人口動態統計)

②早い段階では、**自覚症状がほとんどない**
かなり進行していても症状がない場合もあります

③早い段階で見つけることができれば、**ほぼ治す**※1ことができる

※1 ここでいう「治る」とは、診断時からの5年相対生存率です
相対生存率とは、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数字です

胃がん予防の3つのポイント



①食生活を見直す

塩蔵品などの高塩分食品の摂り過ぎは、胃がんのリスクを上げることが報告されています。
また、野菜・果物の摂取量が少ないグループも胃がんのリスクが高いことが示されています。
高塩分食品の摂取を避け、野菜・果物を適量摂取することで、胃がんを予防する効果が期待できます。

②たばこは吸わない



日本人を対象とした研究の結果から、喫煙は胃がんのみならず、多くのがんに関連することがわかっています。受動喫煙も含め、たばこの煙を避けることはがん予防につながります。

③ピロリ菌感染の有無を確認する

ヘリコバクターピロリ菌の感染が胃がんの原因のすべてではありませんが、ピロリ菌陽性の人が陰性の人より危険性が高いことは明かです。一度ピロリ菌感染の有無を調べ、感染している場合は、医療機関に相談しましょう。

Check!

こんな症状に要注意！

- ☐ みぞおちの痛み・不快感・違和感
- ☐ 胸焼け
- ☐ 吐き気・食欲不振
- ☐ 胃がんからの出血によっておこる貧血や黒い便

胃がん検診で「異常なし」であっても、左のような症状がある場合には、次回の検診を待たずに早めに医療機関で診察を受けてください。



問い合わせ先：秋田市保健所 保健予防課

TEL 018-883-1176~1178

【インターネットで検索】

秋田市 胃がん

検索

クリック！